

# 日本語学習者のための基本語選定の一試案

川村よし子

東京国際大学 kawamura@tiu.ac.jp

共同研究者：金庭久美子（横浜国立大学） 前田ジョイス（東京国際大学）

本発表では、学習者にとって必要な語彙は何かという視点から『日本語能力試験出題基準』の語彙リストを捉えなおし、基本語の追加と級別リストの再検討を提案する。日本語学習者のための語彙リストとしては、『日本語能力試験出題基準』が参照されることが多いが、そのまま日本語学習者のための語彙リストとして活用するには問題がある。今回、日常生活でのコミュニケーションに必要な基本語彙という視点からこの語彙リストを見直すにあたって、単語親密度という指標を用いた。本発表ではその調査結果を報告するとともに、基本語選定のための一試案を示す。

## 1. 日本語能力試験の出題基準

出題基準においては、1級は語彙表の8009語を含む10000語、2級：5035語を含む、6000語、3級：1409語を含む1500語、4級：728語を含む800語とされている（各々の語数には下の級の語彙が含まれている）。

## 2. 単語親密度とは何か

調査では、『日本語の語彙特性（第1期）』（天野成昭他 2000）の単語親密度を利用した。単語親密度とは、個々の単語にどの程度なじみがあるかを7段階尺度で評定した値であり、単語親密度の高いものは基本的な単語とみなすことができる。

## 3. 単語親密度と日本語能力試験出題基準に関する基礎調査

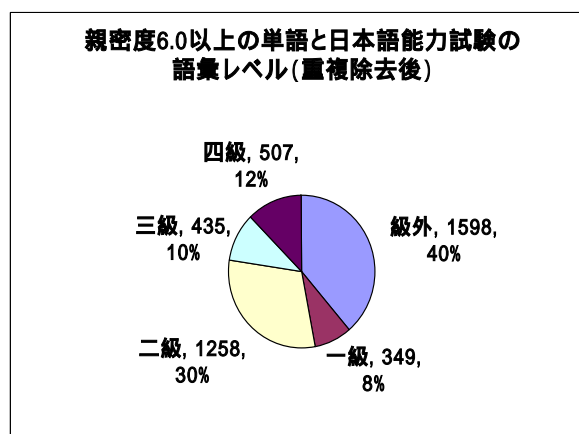
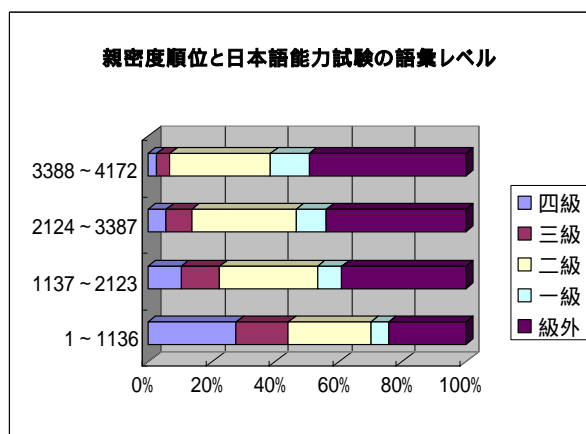
調査対象：単語親密度6.0以上の語（エントリー数：4523 異なり語数：4147語）

調査1：単語親密度順位と日本語能力試験の語彙レベル

方法：単語親密度順に並べた1000語ごとに級別比率の調査を行う

目的：単語親密度と出題基準との関連を明らかにする

調査結果：



## 調査 2：日本語学習者の視点から見た単語親密度

方法：単語親密度 1000 位までの語にどのような語が含まれているかを個々に調べる

目的：日本語学習者の視点から単語親密度の有効性を判断する

調査結果は 資料 1 と 資料 2 の通り

## 4. 基本語彙選定のための提言

単語親密度 6.0 以上の動植物・食品名・固有名詞については、参考語彙として別表を作成し、必要に応じて利用できるようにする。

文化に関する語については 語彙の導入時に特に配慮が必要な語であるため、別表を作成し、学習者の便宜を図る。

単語親密度 6.0 以上の外来語については、出現頻度の高いもの（頻度 1000 以上）を基本語彙とし、残りは参考語彙として扱う。

上記以外の単語親密度 6.0 以上の語で出題基準にないものについては、2 級の語彙リストに追加する。

単語親密度 6.0 以上の 1 級語彙（349 語）は 2 級に移す。

## 5. 『チュウ太の web 辞書』（<http://marmot.chuta.jp/>）と登録語彙

現在各言語グループが編集を行っている多言語版日本語辞書『チュウ太の web 辞書』の見出し語は、上記の調査結果をもとに次のような基準で登録語彙を追加していく。

日本語能力試験出題基準に準拠した 8614 語（8009 語 + 別表記 + 挨拶語等表現）

はすでに見出し語として登録済み

単語親密度 6.0 以上の語（1598 語）を追加登録

出現頻度 1000 以上の語から順次追加登録

## 6. 今後の課題

語の出現頻度という視点からも日本語能力試験出題基準の見直しを行う。

単語親密度と出現頻度情報を活用して日本語学習者のための級別語彙リストを完成する。

親密度チェッカーと頻度チェッカーを開発し、「Reading Tutor」に組み入れる。

### <主な参考文献>

天野成昭他(2000) 『NTT データベースシリーズ日本語の語彙特性（第 1 期）』三省堂

国際交流基金(1986) 『基礎日本語学習辞典』凡人社

国際交流基金・日本国際教育協会(1994,2002) 『日本語能力試験出題基準』凡人社

国立国語研究所編(1964) 『分類語彙表』

徳弘康代(2005) 「中上級学習者のための漢字語彙の選択とその提示法の研究」『日本語教育』127 号、pp41-50、日本語教育学会